



コード (分野)	(3. 社会・金融・経済+5.自然・環境)
メニュー名	自動車販売会社とCSR活動 ～販売会社の過去・いま・これから～
校名(学年)	愛荘町立愛知川小学校 5年
講師・支援者等	トヨタカローラ滋賀株式会社
学 習 名	トヨタの車を <u>売る人たちの</u> 仕事を知らう！
教 科 等	社会科
実 施 日	令和5年 10 月 16 日 (月)9:35～10:20

《授業の流れ》

テーマ「自動車販売会社と CSR 活動への取組み」

1 「この車なーに？いきなりクイズ！」で車の歴史を知る



- ① 初代カローラ 1名正解 約43万円、現在12代目
- ② プリウス 大勢正解 約350万円、環境に優しいセダン
- ③ ハリアー 何名か正解 約400万円、人気のSUV(Sport Utility Vehicle)
- ④ MIRAI 全員不正解 約790万円、燃料電池車→水を排出する

2 メーカーとディーラーの違いを知る

「メーカーとディーラーの違いって分かりますか？」

- ・メーカー：デザイン、開発、研究、輸出、製造などをする
- ・ディーラー：お客様と直接話す。車の販売や整備・点検等をする。



3 ディーラーについて詳しく知る

- ① 仕事について…営業をするものと自動車整備士とのチームワーク
- ② エンジニア（自動車整備士）の1日を動画で視聴
- ③ お店で何人働いている？…草津店で約40人、社員全体で約380人

4 ディーラーとしての思いの変容を知る<メインテーマ：安全・安心>

- ・1966年頃からバブルの時代
どんどん売れる→もっと売ろう→車が売れやすい時代
- ・社会の情勢に変化が出始めた時代

温暖化や高齢社会化等→**疑問**「果たして売るだけでいいのだろうか??」

- ・課題満載→新しい価値の追求、ディーラーとしてできることの追求

- みんな（お客様）が集える場所になる…親近感
- 地域に貢献し連携できる事業を…地域密着・地域貢献



< 例えば… >

- ・環境活動に配慮：ゴミ拾い、琵琶湖保全活動、水性塗料を使用
- ・地域の支援、共存：福祉車両を展示し体験できるウェルキャブステーション
- ・経験の機会を提供…スポーツ支援、小中高へ出前授業
- ・安全を学ぶ…交通安全教室、安全旗の寄贈、災害給電実演など

◎自動車販売会社はもっと身近でいろいろな貢献ができることを知ってほしい。

5 質問タイム

- ・草津だけにあるものは？…安全装置のシミュレーター
- ・お客さんと話をするときには気をつけていることは？…じっくり話を聴いて、感じること・知ること・気づくこと、わかりやすく説明すること

6 まとめ～スタッフの思いに気づく～…ビデオレター

- ・みんなが来たい場所に！
- ・地域と何ができるか、「こんなだったらいいのに」を実現！
- ・安全と豊かさを提供していきたい！！



<感想等>

児童

- ・昔はどんどん車を売ることを目標にしていたけれど、今は、お客さんやみんなが便利で楽しめる場所づくりに工夫していることが分かった。
- ・いろいろなお客さんの話を聞いて対応したり、メーカーに注文したり、点検・整備や洗車もしたりしてくれていることが分かった。また、遊具やイベントもあって楽しそうだと思った。
- ・今日トヨタの勉強をして感じたことは、車が売れるように色々な工夫をして、どんな年齢の人でも買いに行きたいと思えるような努力をしているということです。

学校

- ・「クルマを売る人たちの仕事を知ろう！」では、車が製造された後で、どのような工夫や販売がされているのかを詳しく知ることができた。
- ・動画もあり、子どもたちにとってもより興味が引かれ、身近に感じる事ができた。

支援者・講師

- ・2022年に始まったこちらのプログラムは教室で学べる学習で多くのお申込みをいただいております。初めてこのプログラムを編成した時に社会科担当の先生が希望されたのは「自動車工業の学習で製造や輸出・開発など大きな視点で学んだ児童たちに『自分の生活に深く関係している・身近である』と知ってほしい」ということでした。時代の移り変わりによる車の変化と企業としての役割や思いの変化をお話していると、児童の皆さんから「経済成長期・福祉・少子高齢化」といった言葉が出てきて驚きます。すでに学んでいる知識や経験と紐づけて、一生懸命自分たちなりの理解をして授業に参加してくれている姿を見ると、これから先の子ども達の新しい発想等がとても楽しみです。

